

ゆうあい

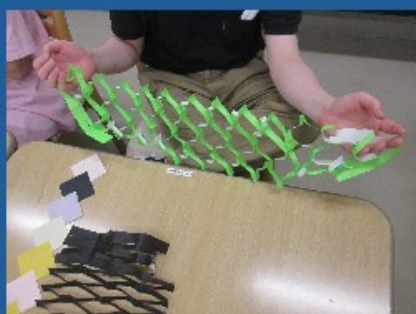


題字 初代総裁三笠宮崇仁親王殿下

共に生きる

2026. 7. 31 No.63

社会福祉法人 友愛十字会



港区立障害保健福祉センター
地域活動支援センター サロン事業
『星に願いを』

主 な 記 事

- 就任挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・友愛デイサービスセンター長 小泉 貴宏
- 辞令交付式・・・・・・・・・・・・・・・・・・法人本部総務部長 品川 文男
- 中核機能の役割・・・・・・・・・・港区立児童発達支援センター 副センター長 増山あゆみ
- 地域勉強会・・・・・・・・・・・・・・・・・・友愛荘 介護部長 板垣 紘子
- ロゴ『SHIRO』について・・・・・・・・・・東京聴覚障害者支援センター 所長 村松 徳治
- 災害伝言ダイヤル・・・・・・・・・・港区立障害保健福祉センター事務長 遠井 基樹
- 世田谷炊き出し訓練について・・・・・・・・・・安全委員会 委員長 田村 英治

就任のご挨拶

友愛デイサービス
センター長 小泉 貴宏



令和8年4月1日付で友愛デイサービスセンターのセンター長を拝命いたしました。

友愛デイサービスセンターは今年で開設三十五年目を迎えます。これまで長きにわたり地域の皆様に支えられながら事業を運営してまいりましたが、私自身はちょうど一年前、副センター長として当センターに着任してからあつという間の日々でした。

それは笑顔がとても素敵なお利用者の皆様との距離を少しずつ縮めていく時間であり、当センターが重んじてきた「規律性・協調性・責任性」を改めて学ぶ一年でもありました。前任の木村センター長が十二年以上の年月を掛けて築いてきたこの文化を大切にしつつ、引き続きご利用者の皆様が安全に安心して通所し

ていただけるセンターでありたいと思っております。

当センターは医療的ケアが必要な十二名を含む重度の身体障害をお持ちの十八名の方々にご利用いただいておりますが、そのご利用者様の多くは言葉によるコミュニケーションが容易ではありません。しかし、きつと表情や視線、わずかな仕草の中にその方らしい思いや願いが込められているはずです。私たちは、当センターがこれまで大切にしてきた「相手の立場に立って考えること」を基本に、その思いを丁寧に受け止める支援を続けてまいります。

今後とも皆様のご支援とご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

法人理念を紡ぐ辞令交付式を

開催しました

法人本部総務部長 品川文男

令和8年4月1日、世田谷本部にて新規採用職員等に対する辞令交付式が行われ、八神敦雄理事長が法人の仲間となった皆さんを温かく迎え

ました。理事長はまず「友愛十字会へようこそ。皆さんと働けることを楽しみにしています」と語り、施設での採用ではなく法人職員として迎えられたことを意識してほしいと強調しました。

続いて、友愛十字会の歩みを「歴史と伝統、そしてチャレンジ」と称し、1950年に戦後の日本で傷痍軍人の苦境を知ったハワイ在留邦人の寄付が設立の原点であり、法人名には太平洋を越えた友情と南十字星の希望が込められていること、身体障害者支援から始まり、時代の変化に合わせて高齢者、子どもへと事業を広げ、現在は都内各所で多様な福祉サービスを展開していること、令和五年には砧ホーム（特別養護老人

ホーム）がロボット・デジタル活用の取り組みで内閣総理大臣表彰を受けるなど、伝統と革新を併せ持つ法人として歩み続けていること、また、各施設の取り組みと特徴、法人の定例行事などを紹介しました。

理事長は、友愛十字会が最も大切にする理念「共に生きる」について、利用者だけでなく、地域の方々、そして職員自身にも向けられていることを丁寧に語り、迷ったときは理念に立ち返り、共に生きる場を皆で築いてほしいと呼びかけました。

理念を実践するためのキーワードとして「感じる・創る・つながる」を挙げ、利用者の思いや地域の潜在的なニーズに気づくこと、必要な支援を創り出すこと、職員同士や地域とつながり協力すること、の重要性を示しました。

最後に理事長は「一人で悩まずチームで解決する」「迷ったら理念に戻る」「皆さんの幸せが利用者や地域の幸せにつながる」という三つの願いを伝え、マラソンのように長く続ける気持ちで取り組んでほしいと励ましました。

新たな仲間として歩み始める皆さんに、友愛十字会の歴史と理念、そして期待が力強く示された日となりました。



児童発達支援センター（ばお）ご紹介
 ～中核機能の役割～
 港区立児童発達支援センター
 副センター長 増山 あゆみ

しての相談機能

これらの役割を果たすために、

『①』に関してはばおでは様々な職種の職員を配置し、保護者様の心配や困りごとに丁寧にご相談に応じ、その

の適応支援を行う保育所等訪問支援、外出が困難なお子様の発達支援や所属園への移行支援を行う居宅型児童発達支援などを行っています。

背景にあるお子様の発達の特性を専門的視点で把握し、保護者様の希望

『④』に関しては、地域の関係機関の場所をお借りし、お子様と遊びながら相談を受けるアウトリーチ型の

やお子様に合わせて、週5日または2日の通園、月一〜二回程度の個別

またはグループでの発達支援を提供し、発達に合わせた環境や方法の工夫

をしながら相談を受けるアウトリーチ型の相談支援や、ホームページで施設の様子や相談の流れなどを案内するなど、保護者様が安心して相談できる

また、夫婦を保護者様と共有しています。『②』に関しては、保護者様同意の上で関係機関とお子様の発達支援について情報を共有する他、関係機関

向けの見学・研修会を年五回程度実施しており、児童発達支援センターの事業概要・中核機能の説明や、児童の発達支援に関する基本的な考え方、発達に合わせた支援の工夫などの情報を発信しています。『③』に

これまでの取り組みにより「発達の相談・支援はばおへ」が地域に浸透してまいりました。お子様の「できた」「わかった」の笑顔や、保護者様の「相談してよかった」の言葉を励みに、今後も地域の皆様に信頼していただけるよう、職員一丸で取り組んでまいります。

港区立児童発達支援センター（ばお）は、障害の有無や種別に関わらず、誰もが住み慣れた地域で発達に関する相談や支援が受けられるよう、令和2年4月に新型コロナウイルスによる行動の制限がある中で開設し、7年目を迎えました。そして令和6年4月に改正児童福祉法が施行され、左記の4点が児童発達支援センターの中核的機能として求められています。

① 幅広い専門性に基づく発達支援・家族支援機能

② 地域の障害児通所支援事業所に対するスーパーバイズ・コンサルテーション機能

③ 地域のインクルージョン推進の中核的機能

④ 地域の発達支援に関する入口とともに、所属の園に訪問し、集団へ

シンボルマークばおぞう



令和8年度第1回事業所向け見学・研修会の様子

地域とつながる地域勉強会

友愛荘

介護部長 板垣 紘子

友愛荘では、地域社会への貢献を目的として、令和六年度より地域住民の皆さまを対象とした「地域勉強会」を開催しています。今年度で三年目を迎え、参加者の皆さまと共に学び合いながら、地域に根ざした活動として少しずつ広がりを見せています。

初年度となる令和六年度は、看護師・管理栄養士・介護職員の各専門職が講師となり、それぞれの専門性を活かした全三回の勉強会を実施しました。看護師からは「オムツかぶれ」をテーマに、在宅で介護を行っている方や介護に関心のある方へ向けて、皮膚トラブルの予防方法やケアの仕方、市販薬の選び方などを紹介しました。管理栄養士による「熱中症対

策」では、高齢者の身体の特徴を踏まえた予防策や適切な水分補給について解説し、実際に自宅で作れる経口補水液を参加者と一緒を作り、試飲する体験型の内容としました。介護職員からは「介護機器の紹介」を行い、施設で使用している機器に実際に触れていただきながら、介護を身近に感じてもらう機会となりました。

令和七年度は、参加者アンケートで寄せられた声をもとに、より地域のニーズに沿った内容へと発展させ、全四回の開催となりました。アンケートでは、「転倒予防の体操を知りたい」、「施設で行っているリハビリ体操を教えてください」、「誤嚥を防ぐ食事の工夫を知りたい」、「食事中のむせを減らす方法を知りたい」、「噛みにくい人への食事の工夫を知りたい」、「認知症の方との関わり方を学びたい」といった、日常生活

活に直結した多くの要望が寄せられました。

これらの声を受け、機能訓練指導員による「介護予防のための体づくり」をテーマに、自宅でできる予防体操を体験していただく内容を実施しました。また、介護職員からは「軽い尿漏れの予防対策」を取り上げ、日常生活で取り入れられる簡単なトレーニングや生活上の工夫を紹介しました。

勉強会では、講師が一方的に話すのではなく、参加者が実際に体験し、楽しみながら学べるよう工夫しています。「自宅に帰ってからすぐに実践できること」を大切にし、地域の皆さまの生活に寄り添った内容となるよう心がけています。

今年度は、「介護職員と看護師」「管理栄養士と機能訓練指導員」といった職種の垣根を越えたタッグを組み、より幅広い視点か

ら地域の皆さまへ新たな学びを届けていきたいと考えています。

友愛荘の理念である「あなたと共に」には、「利用者と共に」、「職員と共に」、「地域と共に」という三つの想いが込められており、地域向け勉強会は、「地域と共に」を体现する取り組みです。地域の皆さまに参加していただくことで、開かれた、つながりのある施設として、地域に根付き、信頼される施設を目指す第一歩になると考えています。

「あなたと共に」という理念のもと、地域の皆さまと共に歩む施設であり続けることが、私たち友愛荘の使命です。勉強会を通じて生まれるつながりを大切にし、地域に信頼される施設づくりを今後進めてまいります。

ロ「【SHIRO】 にっぽん

東京聴覚障害者支援センター

所長 村松 徳治



新施設外観の工事状況（6月末時点）

東京聴覚障害者支援センターでは、旧施設の解体が終了し、新施設の建設が進んでいます。当初は令和8年8月の竣工を予定していましたが、国際情勢による資材調達の遅延等の影響を受け、工期が後ろ倒しとなりました。本広報誌が発行される頃には、竣工の見通しがより明確になっているものと思われます。新施設は、従来の「施設らしさ」を感じさせない北欧デザインを取り入れ、

居心地の良さと安全性を両立した空間づくりを目指しています。

こうした建替えの動きと並行して進めているのが、センターの新たなブランド形成を図る「SHIROプロジェクト」です。SHIROプロジェクトは、センターの新しい「売り」となる製品・サービスを創出することを目的として立ち上げられました。従来の企業依存型の作業体系から一歩踏み出し、利用者の働き方の幅を広げ、工賃向上を図るだけでなく、センターに関わるすべての人が誇りを持てる取り組みを目指しています。

現在は焼き菓子の製造を中心に、自主製品開発を進めています。パティシエによるレシピ監修、絵本作家とのロゴ制作など、多様な協働が進んでおり、製品の品質やデザイン性を高める取り組みを行っています。新施設では、この焼き菓子を提供する小さなカフェスペースの設置も検討しており、利用者が製造や接客に関わる就労支援の場として活用する計画です。

一方で、センターでは新たな愛称の検討も進めてきました。現在の

「東京聴覚障害者支援センター」という名称は都内の聴覚障害者関連施設と類似しており、利用者や地域の方々からは判別しづらいとの声が寄せられていました。名称が長く硬い印象で、親しみを持って呼びかけるには距離があるという課題もありました。

こうした背景から、センターの理念を端的に表し、呼びやすい愛称を設けることを目的として検討を重ねた結果、プロジェクトと同じ「SHIRO」という名称が採用されました。SHIROには、まず「白紙」つまり「さらなキャンバス」という意味が込められています。新しい施設が新しい支援、新しい働き方の形を描くだけでなく、利用者一人ひとりが、自分の人生を自分らしく描き続けていけるように、そのための環境と支援を整えるという思いを象徴しています。

加えて、センターが大切にしてきた価値を整理した結果、Sign（手話・視覚言語を基盤とした支援）Heart（あたたかさ・誠実さ）Integration（包摂・多様性の受容）Reach（必要な支援を確実に届ける

姿勢）Open（地域に開かれた存在であること）という五つのキーワードが導き出されました。これらの頭文字を並べるとS・H・I・R・Oとなり、「白紙＝SHIRO」の理念と重なります。

SHIROは、単なる愛称ではなく、センターがこれから歩む方向性を示す「旗印」です。新施設の完成とともに、支援の質の向上、地域との連携強化、新しい価値創出を進めていくうえで、センター全体が共有する理念として位置付けています。

東京聴覚障害者支援センター【SHIRO】を、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



カフェスペースのロゴマーク（手話を表す鳥の羽と、製菓作業の象徴である泡だて器をくわえた鳥を表現）

『災害伝言ダイヤル』で

情報発信を複々線化！

港区立障害保健福祉センター
事務長 遠井 基樹

港センターでは、災害発生時に、利用者やご家族等への情報提供をより迅速かつ確実なものとするため、令和8年5月1日から、『災害伝言ダイヤル(171)』を利用した情報発信を始めました。

大規模災害時には、通信の障害や規制などにより、通常の連絡手段では、利用者等に確実に情報を提供することが困難になります。

そこで、手段の一つに頼るのではなく、複数確保しておくことが、より重要です。

港センターではこれまで、法人ホームページ、港区ホームページ、建物正面玄関への掲示、担当者からの連絡、「安否確認ポッドLine works」による自動メールの送信、各施設のSNSなどの手段によって、災害発生時に利用者・ご家族への情報提供を行うこととしてきました。

これら従前からの手段も継続しつつ、今回の「171」導入により、情報提供手段の複々線化と、迅速確実な情報提供の両立を図ります。

『災害伝言ダイヤル(171)』による情報提供を行う条件は、

条件その1 港区内で震度5強(気象庁地震計で)の地震が発生した。

条件その2 『災害伝言ダイヤル(171)』が開設された。

以上の2つの条件がともに満たされた場合に限り、センターの営業時間の内外を問わず、情報提供を行います。利用者やご家族は、災害伝言ダイヤルセンター「171」へ電話し、当センターの代表電話番号「03-5439-2511(実際の通話時はハイフン省略)」を入力することで、情報を聴く事ができます。

今後も、防災力向上を図り、利用者・ご家族等の安心・安全につなげてまいります。



世田谷炊き出し訓練について

安全委員会

委員長 田村 英治

令和八年六月十八日、あいにくの雨模様でしたが、コロナ禍により中断していた炊き出し訓練を実施しました。

私を含め、参加した職員のほとんどが友愛十字会での炊き出し訓練の経験がなく、今回は失敗しても、そこから課題をみつけ、次に繋げることも目的の1つとして実施しました。

さて、訓練は安全委員会と栄養士が中心となり、次の4班に分かれて行いました。

①「環境整備班」は炊き出しを行うテントやテーブルの運搬設置。当日は雨でしたのでテントの設置は行わず建物内廊下にテーブルを設置しました。②「機材班」は備蓄食の温めを行うためのガスボンベ、コンロカート、鍋などの搬出設置を行いました。③「水確保班」は発災時に水道が利用できないことを想定し、湯煎用のペット

ボトルの搬出を行いました（今回は事前に準備したため、班活動はなし）。④「食材班」は備蓄倉庫からカレーピラフとクッキーの搬出を行いました。

今年4月に訓練で備蓄品や機材などの倉庫を確認しましたが、実際に搬出するとなると、「あそこの倉庫で良かったんだよね」「倉庫の鍵ってどこだったっけ」など不安な声もありました。

カレーピラフは常温でも食べられるものですが、今回は昼食に間に合うよう温めを開始し、各施設に必要な数を届けるところまでが訓練でした。時間には間に合いましたが、訓練後のアンケートでは、

「ライターが無かった」

「事前に必要数が分かっていたが、実際にはいくつ必要で、どう分配するのかわからない」など、想像以上の課題や改善案などがありました。

今回は170食中60食を温めるだけの訓練でしたが、実際はそれ以上の食数になることと思います。今回の訓練をいかし、非常時に備えたいと思います。

環境整備班によるテーブルの設置



食材班によるカレーピラフの搬出と仕分け



機材班によるコンロカートの設置



善意のかずかず

次の方々から利用者及び施設に対しまして「奉仕等」を賜り、また、善意の金品のご寄贈を頂きましたことに対して、心より御礼申し上げます。
(令和7年12月1日～令和8年6月30日)

奉仕活動

- 世田谷更生館
- 秋山 一代
- 伊藤 幸子
- 福永 春美
- 渡邊 砂代里
- 友愛園
- 慶応義塾大学ライイチウス会
- 友愛デイサービス
- 山川 敏江
- 砧あんしんすこやかセンター
- 菅田 悦子
- 西多 法子
- 山田 哲夫
- 若林 佳美
- 友愛荘
- 加藤 尚子
- 菅野 晴美
- 田久 好希
- 田巻 いづみ
- 船山 直子
- 宮下 芳恵
- 鷺頭 芳子
- 港区立障害保健福祉センター
- 一山 陽子
- 伊藤 恵一
- 岩崎 智子
- 岡田 藤子
- 小林 和子
- 定方 義和
- 武田 敦子
- 竹之内 公恵
- 宮田 眞

寄付金

- 本部
- 関東ボウリング場協会
- 日本ボウリング場協会(BB)会
- 友愛デイ
- 株式会社世田谷サービス公社
- 友愛ホーム
- 上井 正次
- 砧ホーム
- 石井 洋一
- 砧デイサービス
- 石井 洋一
- 東京聴覚障害者支援センター
- 糟谷 昭雄
- 友愛荘
- 五十嵐 知江
- 斎藤 秀樹
- 港区立児童発達支援センター
- 和泉 樹央
- コーポ友愛
- 株式会社ピエラス
- 株式会社ユメックス
- 砧ホーム
- 荒井 恵美子
- 坂入 正美
- 東京聴覚障害者支援センター
- (特非)国際ブリアー
- オムロン株式会社
- 公益財団法人報知社会福祉事業団
- 善意銀行
- 港区立障害保健福祉センター
- オムロン株式会社
- 港区立児童発達支援センター
- (二社)東京馬主協会

寄付物品

(敬称略)

職員異動

(令和7年12月1日～
令和8年6月30日)

○就任

友愛デイサービス
センター長 小泉 貴宏



編集後記

サッカーW杯の熱狂に日本中が沸いた今年の夏。当法人でも、これから開催される地域の盆踊り大会への参加を控え、皆様と笑顔で交流できる日を心待ちにしております。夏の風物詩を通じて、地域との繋がりを季節に負けないようさらに深めたいと思います。さて、今号の冊子も無事にお届けする運びとなりました。皆様の日々に寄り添う情報となれば幸いです。例年になく厳しい暑さが続きますが、どうぞご自愛ください。

《第六十四号は、令和九年一月一日発行予定です。》

ゆうあい編集委員会 副委員長
砧ホーム 施設長 武井 安浩

ゆうあい 第六十三号
令和八年七月三十一日

発行 社会福祉法人 友愛十字会
発行人 酒井 健治
所在地 東京都世田谷区
砧三丁目九番十一号
電話(〇三)三四一六一三二六四
<http://www.yuai.or.jp>